

飼育下インドゾウで観察されたマスト期における雌雄の行動量変化

○藤野愛美¹, 木倉有佳里¹, 金澤朋子¹, 半澤紗由里², 村田浩一¹
 (¹日本大学野生動物学, ²横浜市立金沢動物園)



背景

野生のインドゾウ (*Elephas maximus indicus*) は、マスト期において雄から雌への社会的コンタクトが増加すると報告されているが、動物園ではこの期間中、繋留されたり雌雄が分離飼育されたりすることが多いため、これらの行動変化の観察例は少ない。そこで本研究では、常に雌雄同居が行われている個体を対象に雄から雌への社会行動量とマスト期における雌の行動量の変化を明らかにすることを目的とした。

方法

観察期間

- 2011年5月～2012年6月(内、マスト期は4回発現)
 - マスト期および非マスト期から5日ずつ、計40日間を観察
- ※側頭線分泌が確認された期間をマスト期とした。

表1. 観察日

	マスト期	非マスト期
1回目	2011年7月12～16日	2011年5月18～25日
2回目	2011年10月25～29日	2011年9月6～10日
3回目	2012年2月18～24日	2011年12月20～24日
4回目	2012年5月28～6月1日	2012年4月9～13日

供試個体

横浜市立金沢動物園で飼育管理されているインドゾウ雌雄各1個体

- 雄: 愛称; ボン, 1976年10月生(インドでの野生保護個体)
- 雌: 愛称; ヨーコ, 1978年4月生(インドでの野生保護個体)



図1. 供試個体の写真
 左: 雄(ボン)
 右: 雌(ヨーコ)

観察方法

- 間接サンプリング法
 → 屋外放飼場にビデオカメラ(SONYCTCB-5310IRN)を1台設置し撮影
 → 撮影時間は12時～16時の4時間/日
- 連続サンプリング法
 → 行動目録に従う

表2. 行動目録

	行動名	定義
雄	接触	雌の体に触れる
	操作	鼻を使った動作
	前後運動	体を前後に揺らす
雌	移動	前進、後進、体の向きを変える
	水浴び	プールに入る、側溝の水に鼻で触れる
	静止	立位で特に動きが見られない
	その他	上記に含まれない行動

結果

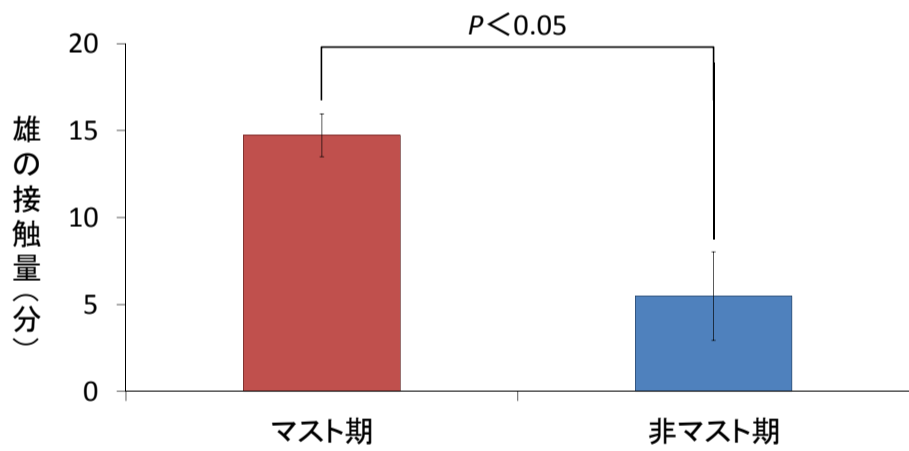


図2. 雄が雌に接触する行動量

全4回のマスト期において、雄の接触は非マスト期に比べ有意に増加した。マスト期の平均接触量は14.8分であり、非マスト期は5.5分であった。

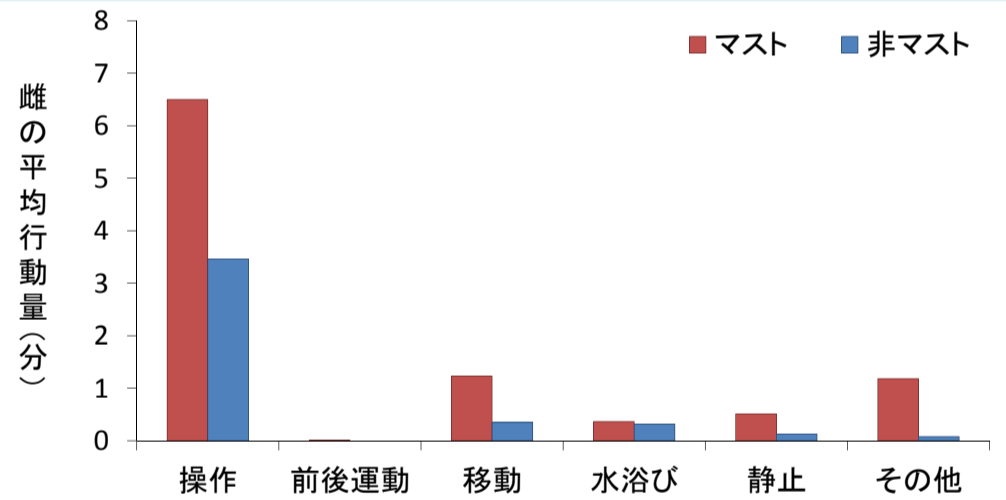


図3. 雄の接触時に雌が発現する行動

マスト期、非マスト期のどちらにおいても、雄に接触されている間に雌は、「前後運動」の発現が著しく少なかった。

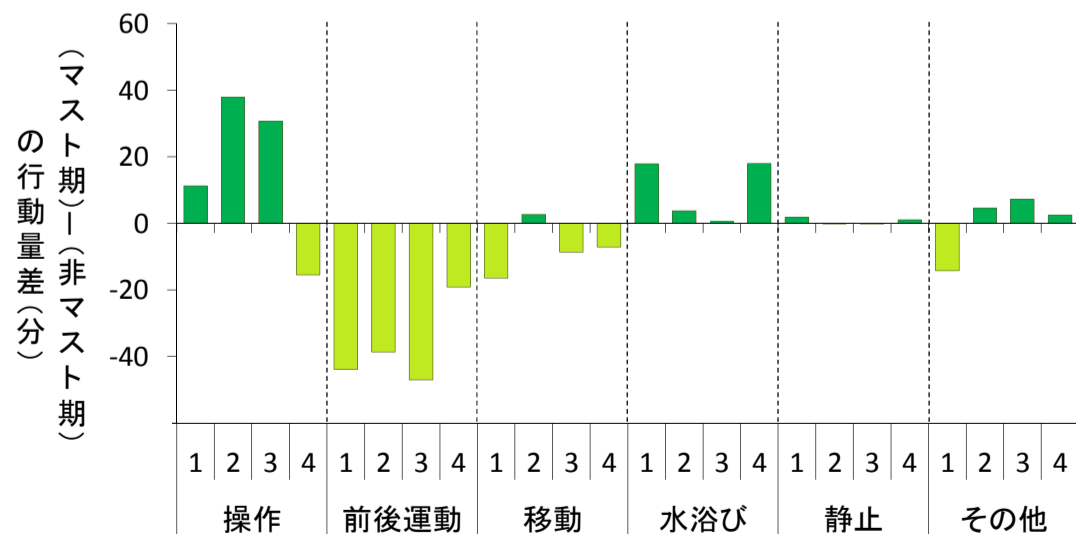


図4. マスト期と非マスト期の雌の各行動量の違い

全期間において「前後運動」は減少し、「水浴び」は増加した。

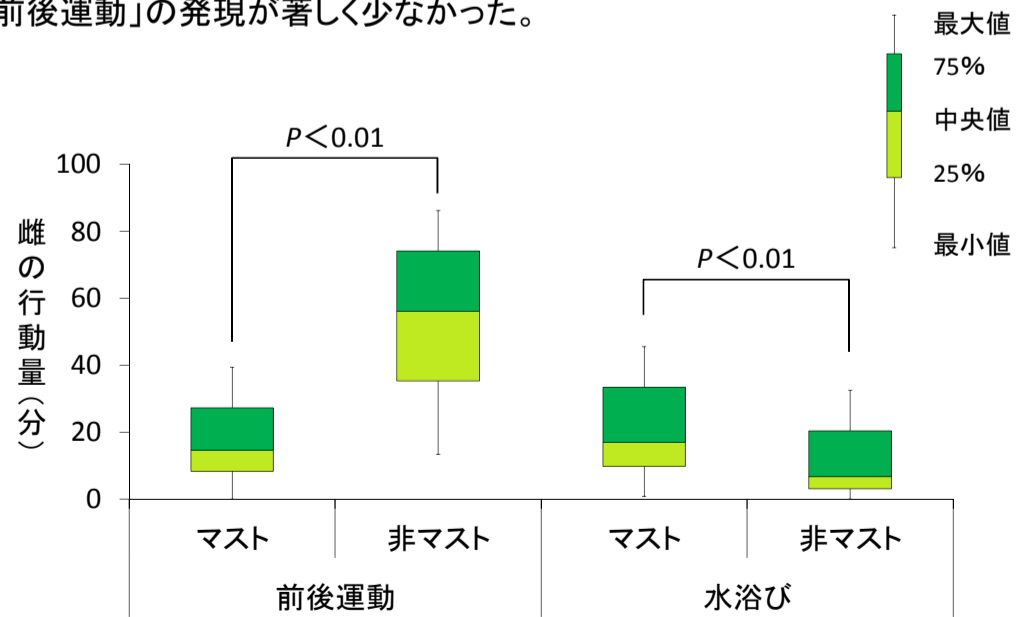


図5. 雌の「前後運動」と「水浴び」の行動量

全期間を通して、一定の変化が認められた2つの行動量をマスト期と非マスト期で比較したところ、それぞれ有意な変化が認められた。

考察

野生下と同様に飼育下でもマスト期に社会的コンタクトに関わる行動の増加が認められた。また、雄の接触時に雌は、前後運動のみ行っていないことから社会的コンタクトは、雌の常同行動とくに前後運動に対する抑制的な影響要因になり得ると考えた。